

上手に医療を受けるために ～医療機関との関わり方を考える～

病気やけがをした時にかかる医療機関。

納得できる医療を受けるためには、どのように医療機関と関わればいいのでしょうか？

今回は、病気やけがをした様々なシーンでの医療機関との関わり方を考えてみました。

安心して治療を受けるためにも、医療機関や医師とのよりよいコミュニケーションが大切です。



ケガや急な発熱。
救急車を呼ぶべき？
病院へ行くべき？

A

今すぐ病院に行った方がいいか、救急車を要請したほうがいいのか？と迷った時は、まず救急電話相談を利用しましょう。

専門家（医師、看護師、救急隊経験者など）のアドバイスを受けることができます。

「#7119」東京消防庁救急相談センター

【全日】24時間受付

「#8000」小児救急電話相談

【平日夜間受付】午後6時～翌朝8時（祝日・年末年始を除く）

【休日受付】午前8時～翌朝8時（土・日・祝日・年末年始）

※「体調が悪いけど、どこの病院へ行ったらいいか？」の相談に対しても、受診可能な医療機関を紹介してくれます。

救急電話相談

緊急性が高い症状

救急車を要請

緊急性が低い症状

医療機関の紹介



「かかりつけ医」を持とう！と言われてい
るけど、どうやって見つけたらいいの？

A

あまり病気にかからない、市販薬で対処してきた、その都度医療機関を選んできた…など決まった「かかりつけ医」がない場合、下記を参考にし「かかりつけ医」を見つけましょう。

- ・健康診断、検診をきっかけに近くのクリニックに行ってみる
 - ・予防接種をきっかけにする
 - ・家族の受診をきっかけにする
 - ・身近な医療機関を探ることができる医療情報ネットを活用する
 - ・医師会の医療連携・在宅医療サポートセンターに相談する
- 電話番号：03-3997-0121

※「かかりつけ医」とは
なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介してくれる身近で頼りになる医師のこと。
介護保険の書類や主治医意見書の作成にも応じてくれます。

コラム

「地域医療連携」

地域のかかりつけ医と医療機関が連携するネットワーク。その一つに「紹介」と「逆紹介」があります。

紹介：かかりつけ医でできない専門的な検査や治療が必要になった場合に、「紹介状」を作成し病院の医師へ診察を依頼する
逆紹介：救急で入院した場合も含めて病院での治療後、症状が安定した時は、病院の医師からかかりつけ医へ「診療情報提供書」を作成し退院後の診察を依頼する
(新たな医療機関での治療が必要な場合は他の医療機関を紹介することもある)



このように、医療機関同士が相互に連携を図り、継続性のある適切な医療をサポートすることで、急性期から回復期まで切れ目のない医療を受ける事ができるネットワークです。